

第1回高石市行政計画審議会 議事結果概要

開催日時	平成30年8月2日(木) 午前10時00分～正午
開催場所	高石市役所 本館2階 正庁大会議室
出席者	日野委員(会長)、古賀委員、西村委員、宮崎委員
議事	議題1 会長の選出および副会長の任命について 議題2 高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略等の平成29年度における効果検証について
資料等	次第 委員等名簿 基本目標評価シート

発言者	発言内容
事務局	只今から、平成 30 年度第 1 回高石市行政計画審議会を開催する。委員の変更について、国の人事異動に伴い、太田委員から横山委員に、本市市議会議長の交代により、畑中委員から古賀委員にそれぞれご就任いただいたのでご報告する。まず初めに、会長の選出について、何かご意見等ございますか。
西村委員	引き続き日野委員にお願いしたい。
事務局	日野委員を推薦する意見がありますが、ご異議ございませんか。
各委員	(異議なし)
事務局	異議がないので、日野委員に会長をお願いする。日野会長より議事進行をお願いする。
日野会長	副会長の任命については、高石市行政計画審議会条例第 5 条第 4 項の規定により、会長が指名することとなっているため、私から指名させていただく。人口減少を克服するためには、しごとの創出が必要不可欠であることから、地域の企業と密着した商工会議所の会頭を務めておられる宮崎委員にお願いしたい。
日野会長	本日の平成 30 年度第 1 回審議会においては、議事次第のとおり、総合戦略における事業の効果検証について、各委員のご意見をいただきながら進めたい。事務局より、本審議会の進め方について説明をお願いする。
事務局	本審議会では、総合戦略の 4 つの基本目標に関連して平成 29 年度に実施した事業(国の地方創生推進交付金を活用した事業も含む。)について、PDCA サイクルによる効果検証を行う。 会議の進め方については、事務局から平成 29 年度の事業内容や実績を報告し、委員の皆様からご意見をいただきたい。
日野会長	各委員、進め方は今の説明通りで問題ないか。
各委員	(異議なし)

	基本目標1：子どもを産み育てやすい環境を整える
事務局	<p>基本目標1においては、12項目のKPI、1項目の事業目標を設定。平成29年度に事業を実施したものは、10項目のKPIと、1項目の事業目標。KPIの内6事業が目標を達成、4事業が未達成で、事業目標については達成となっている。</p> <p>実施事業については、目標値の70%を超えている事業が90%であり、順調に進捗していると認識している。しかし、未達成のものについては、事業の周知徹底がKPIの達成率向上につながると考えられることから、PR方法を工夫するなどして積極的に周知してまいりたい。</p>
日野会長	今の事務局の説明に関しては、子育て・保育に関する項目も多いので、まず、西村委員にご質問・ご意見などお願いしたい。
西村委員	<p>子育てウェルカムステーションの整備について、アプラ高石の入館者数が順調に増えており、4階の図書館や図書館の前のロビーは非常に雰囲気良くなっている。アプラのチラシも若い方が見て感じが良いものになっている。ハグッドについても、利用者数が増えており、施設を介して親が子どもと遊べており良い事だと思う。</p> <p>次に、不妊治療に関する支援について、達成率が低い原因として考えられることがあればご説明いただきたい。</p>
事務局	本事業は大阪府の補助が決定された後に行うものであるため、年度で区切った時に数字が変動してしまうのが要因の1つだと考えている。また、金銭的な負担だけでなく、肉体的・精神的な負担もある。本市には、西日本の公立では唯一自然分娩ができる助産施設の母子健康センターがあり、精神的な支援として、不妊治療に関する相談も行っている。今後も母子健康センターと連携し、これらの制度も含めて周知を強化していきたい。
西村委員	不妊治療を望む方にできるだけ支援するために、不妊治療を終了してからではなく、もう少し早い段階で支援できないか。また、不妊治療を続けるかどうかについては、精神的な負担も大きいと思うので、相談の制度をさらにPRしていただきたい。
日野会長	この件について、今後の目標値は前々年度の実績から、ある程度想定

	して設定したものなのか。
事務局	目標値の設定については、平成 31 年度の目標値 60 に対し、傾斜配分したもの。
日野会長	全般的に言えることだが、目標値の設定が機械的に過ぎる嫌いがある。本当の需要に対し、どの程度達成できているかということが大事だと思う。相談件数に関する KPI を入れると、相談のあった件数に対してどの程度達成できているかという評価ができるのではないか。
宮崎委員	不妊治療に関して、制度のハードルが高いと思う。子どもを欲しいと考える人は高齢になりつつある。なので、その分給料が高く、所得制限により制度を利用できない。そのあたりも含めて門戸を広げられたら良いと思う。
事務局	所得制限については、大阪府が設定しているため、仕組みの研究を行い、独自にできることがないか検討していきたい。精神的な支援や、制度のハードルを下げる仕組みについては検討してまいりたい。
西村委員	子育て包括支援センターの創設による出産・子育ての切れ目ない支援については、ほぼ目標値を達成できているようだが、虐待問題や、子育てをしにくい環境の方がいる。そういう方への支援や関与について、今の状況はどうか。
事務局	子育て支援センター事業の一つで赤ちゃん広場事業というものを実施している。毎週火曜日に市役所の多目的ホールで開催しており、その中で、これまで妊娠・出産期から関わってきた母子保健の担当者とこれから関わる子育て支援センターの職員が一緒になって相談に乗り、育児の悩みを抱える方をケアしている。
西村委員	赤ちゃん広場等に積極的に参加できる方は良いが、参加できない方をいかに見つけるかが大事。そういう意味で、乳児家庭訪問はこちらから出かけて広く関わりを持てるので有効だと思う。そこから継続的な支援につながる体制ができれば良いと思う。
日野会長	目標達成していることは良いことだが、受けた方の評価も重要。また、

	<p>どんな相談があって、どんな解決をしたのかも大事で、そういった情報が出産後の母親に伝われば、うちにもいつ来てくれるのか、ということにつながる。数値はこれで良いと思うが、そういった形の内容も考えていただくと実質的な目標になるのではないかな。</p>
西村委員	<p>最後に病児保育について、今年度から KPI を利用者数から受入可能者数に変えて、目標達成できているということだが、利用者数は 29 名ということで多くはない。何か利用しにくいというようなことがあるのか。利用者のニーズとの間でギャップがあるのかどうか。アンケートをとってみる等の工夫があってもいいのではないかな。</p>
事務局	<p>訪問型の事業者でとったアンケートでは、病院への代行受診のニーズが高かった。これについては、小児科の医師から小さい子どもは自分の症状を上手く伝えられないため、できれば親が来て欲しいとのことだったため、課題が多いと思っている。また、保育所へのお迎えについての要望もあったが、人員の問題等の課題があるため、委託業者とも協議しながら改善に向けて調整を進めていきたい。</p>
西村委員	<p>制度を利用するにあたり、朝病院に連れて行かなければいけないのが、働いている人にとっては困難ではあるが、やはり子どもの健康を考えると兼ね合いが難しいということが分かった。たとえば、2 回目以降の受診で、薬をもらいに行くだけの場合などは臨機応変に可能にするなどの工夫をしていただけるとありがたい。</p>
日野会長	<p>保育園で子どもの気分が悪くなった時に親に迎えに来て欲しいとなると、仕事をしている人にとっては中々難しいと思うので、先ほどお話のあった、病院に連れて行く等のサービスができれば良いと思う。</p>
古賀委員	<p>2 点お話ししたい。1 点目は、31 年度で出生数が 700 人という目標設定だが、市の統計によると 27 年度 493 人、28 年度 469 人、29 年度 451 人ということで減少傾向。30 年度はまだ 3 ヶ月だが 88 人で、このままで推移するとさらに減少する懸念がある。31 年度の目標値とは大きく乖離があるが、当初の目標値設定の根拠は何か。また、目標値に足りていないという現状や、今後の対策をどう考えているか。</p> <p>2 点目は、ハグッドについて、利用者数を見ても、極めて効果的な事業だったと思う。ハグッドという新しい施設ができ、アプラ全体の入館</p>

	<p>者数も大きく増えていることから、目標値を上方修正すべきではないか。</p>
事務局	<p>最初の質問に関して、当時、国の社会保障人口問題研究所から示された今後の人口の推計については、少子化が進み、日本全体で1億人を切るということが示されていた。本市においても、当時の出生数が500人程度だったため、このまま対策を講じなければ今後400人台になることが明らかだったが、高い目標を設け、何とか31年度に700人にまで持っていきたいということで目標設定を行った。また、市外からの子育て世代の転入数も数値目標に掲げており、市内の方の出生数を上げること、および市外からの子育て世代の転入者が子どもを産み育てることの相乗効果によって、この高い目標値を目指すこととした。</p>
日野会長	<p>設定されている数値目標がそもそも高いものばかり。国も人口減少を認めているにも関わらず、どこの自治体の総合戦略でも人口増加を掲げている。高い目標値を目指すための施策を数値化し、達成度を出すことで、頑張り度を出しているようなものだと思う。国も市町村単位では難しいため、広域で考えようとなってきた。現状では、高石市としては非常に頑張っている。アプラの入館者も市内の方と市外の方が半々のため、近隣市にも非常に貢献していると言える。そういった評価を今後していかなければならない。</p> <p>2つ目の質問についてはいかがか。</p>
事務局	<p>ハグッドは平成28年12月から開設し、平成28年度は15,654人にご利用いただいた。その当時のKPIは25,000人という目標だったが、ご利用状況を考慮し、40,000人に上方修正した。平成29年度も45,998人と多くの方に利用いただいた。今後はイベント等を通じてリピーターを増やしていきたい。また、ご指摘のアプラの入館者数の目標値については、ハグッドができる前と後で数値が同程度のため、上方修正についても今後検討してまいりたい。</p>
日野会長	<p>基本目標1については、目標値を達成した施策が未達成の施策より多く、おおむね順調であると評価する。事業の内容については、さらに改善すべき余地がないか等、引き続き努力を続けていただきたいと考えるが、いかがか。</p>

各委員	(異議なし)
基本目標 2 : 働きやすい環境を整える	
事務局	<p>基本目標 2 においては、6 つの KPI を新たに追加し、9 項目の KPI、1 項目の事業目標を設定。平成 29 年度に事業を実施したものは、7 項目の KPI と、1 項目の事業目標。また、国の地方創生推進交付金の交付を受けた施策として、「健幸のまちづくり事業から生まれた新規雇用者数」、「新規ヘルスケア商品・サービス創出数」、「協議会参加団体数」、「人材バンク登録者と企業のマッチング数」の 4 つの KPI を設定している。KPI の内 1 事業が目標を達成、6 事業が未達成で、事業目標については、未達成となっている。</p> <p>実施事業については、目標値の 70% を超えている事業が 28.6% である。新たに追加したものについては、引き続き目標達成に向け努力してまいりたい。また、未達成のものにつきましては、原因を把握し、目標達成に向け改善してまいりたい。</p>
日野会長	今の事務局の説明に関して、労働や経済に関する面から、まず、宮崎委員にご質問・ご意見などをいただきたい。
宮崎委員	専門性を身につけるための資格取得支援については、目標達成率が 0% となっているが、どうお考えか。
事務局	昨年度の利用者が 0 というところだが、今年度は利用しやすいよう要綱等改正を行ったところ。補助の上限を 3 万円から 5 万円に引き上げ、対象となる資格も広げた。
事務局	補足になるが、資格取得については 28 年度、29 年度も相談はあったが、結果的に本人の負担があるということで申請が見送られた。それを受け、補助の上限を 5 万円に引き上げ、かつ、本人負担を 50% からゼロにしたことで今年はずでに 4 件ご利用いただいた。これまで実現に至っていなかったのは、本人の負担があるということが一番の原因だと考えている。
宮崎委員	<p>おそらく原因はそういうことだろう。これについては今後、検証しながら考えていただきたい。</p> <p>次に市内企業と就職希望者のマッチング支援について、今年の 6 月の</p>

	<p>説明会を見にいったが、ハローワークに名前だけでも貸してもらったらどうかという指摘をした。ハローワークと書いていることで、就職というイメージが出てくる。加えて、開催時期が大企業の解禁の前々日だった。その時期に就職活動する人は、大企業に行きたいという人が多く、説明会に来ないのではないか。開催時期や、アピールの対象も含めて検討すべきでは。</p>
事務局	<p>説明会の開催時期については、来年度以降は新卒者の就活動向に注視し、ハローワークや大学のキャリアセンターの意見を参考にしながら開催時期を決定していきたい。ハローワークとの連携についても、第二回目の説明会ではハローワークと共催し、集客に努めてまいりたい。</p>
日野会長	<p>就職に対し自治体が果たすべき役割について考える必要がある。一般の就職であれば市が直接関わるものでもないと思うが、市内の企業に就職してもらえれば税金としても還元されるため市として支援すべきとも言える。開催時期もそうだが、どういう人をターゲットとしていくかが重要。また、説明会と資格取得支援制度を連携できないか。そういった施策連携について検討いただければと思う。</p>
日野会長	<p>人材バンクの創設について、企業に紹介するための人材バンクとなっているが、もう一步踏みだして、市の行政の仕事など公共性のあることに、生きがいくりの一環として参加できるという方が、本来の目的に近いのではないかと。企業への紹介だと就職斡旋と変わらないため、考え方が違うのではないかと。人材バンクのあり方については、再度検討いただけるとありがたい。</p>
古賀委員	<p>臨海の工業地帯について、現在は事業所単体で活動をしているが、相互に協力しあうべき。事業者がお互いにどんなものを作っているのかを把握できていない。事業所だけでは連携が難しいので、行政が商工会議所とも連携しながら協議の場を設ける等、横のつながりを広げていく支援をしていくべき。いかに競争力の高いコンビナートにするか。そのためには行政の支援が必要。実際にそういったことをやっているコンビナートもあるので、そういう先進的なところを視察いただいて、取り組んでいただきたい。</p>
宮崎委員	<p>悪くはない話だが、企業の大小色々ある中で具体的にどう連携してい</p>

	くか、こうしましょうとは中々言いにくい。勉強していただいて、こういう例があるということを示していただければ助かる。
事務局	企業間連携というのは行政が関わっていかないと難しい部分。ヨーロッパの方では、一つの企業団地の中で企業間連携を結んで、お互いに需給し合いコストを削減しているという事例も聞いている。これについては、今後の検討課題とさせていただきたい。
古賀委員	一例を挙げると、電気等について、一企業ではなく島全体でユーティリティセンターを作って活動しているコンビナートもある。そういった発想は一企業では中々できない。全体的に見ることができるのは行政や商工会議所なので、それらの支援によって、より効率的なコンビナートへ作り変えていくということが大切だと思う。
日野会長	基本目標2については、新たな事業で目標を達成しているものもあるが、十分とは言えない事業もあるので努力を続けていただきたい。今後は施策間の連携、目標に対する施策の意義付けや効果の考え方などについても検討いただきたい。ということで、いかがか。
各委員	(異議なし)
基本目標3：いつまでも健幸にすごせる環境を整える	
事務局	基本目標3においては、9項目のKPIを設定。平成29年度に事業を実施したものは7項目のKPI。KPIの内2事業が目標を達成、5事業が未達成となっている。 実施事業については、目標値の70%を超えている事業が71.4%であり、おおむね順調に進捗していると認識している。しかし、未達成のものについては、原因を把握し、目標達成に向け改善してまいりたい。
日野会長	今の事務局の説明に関して、福祉や安全に関する項目が多いので、まずは、古賀委員に、ご質問・ご意見をいただきたい。
古賀委員	ほぼ順調に進んでいる。特に、福祉バスは2台から3台運行に増やしたことやルート変更で利便性が上がったという声も聞いているので、一定評価できるものとする。在宅医療介護体制の整備については、高石市は狭いエリアに町医者の数も多いことから、医療難民がほとんどいな

	<p>いのではないかということを知り、医師会の先生からも聞いており安心して いる。高石の特徴を活かした健幸づくりの事業を進めていただきたい。 平成 23 年からスマートウェルネス事業のスタートを切ったわけだが、 他市ではより進んだ取り組みをしている事例がある。特に大分市や、滋賀 県。高石市も歩くこと中心ということだけでなく、市民と協働し、事業 に参加していない方が参加できるように作り変えていく必要があるの ではないか。</p>
事務局	<p>現在、健幸づくり教室では運動指導者の指導のもとで市民が運動して いる。また、健幸ウォーキングの前に市民の方に自主的に体操をしてい ただいている。今後については、ご指摘いただいた大分市を含めた先進 自治体の事例の調査研究や、意見交換を行い、本市の健幸づくり事業の 向上を図っていきたい。</p>
日野会長	<p>運動をして健康になるということも良いが、日常の中で外出の機会を 増やして健康になっていただくということも重要ではないかと思う。ま た、福祉バスについては台数を増やしているということだが、他の自治 体からすると羨ましいことだと思う。利用者が増えているというだけで なく、外出が増えている分、健康度も上がっているといえる。そういつ たことも含めて評価できれば良い。</p>
日野会長	<p>基本目標 3 については、実施している施策については現時点では順調 だと考える。今後は施策の改善や、他の施策との連携について、引き続 き検討いただければと思うが、いかがか。</p>
各委員	(異議なし)
基本目標 4 : 住みたくなる環境を整える	
事務局	<p>基本目標 4 においては、15 項目の KPI、4 項目の事業目標を設定。平 成 29 年度に事業を実施したものは、14 項目の KPI と 3 項目の事業目標。 KPI の内 8 事業が目標を達成、6 事業が未達成で、事業目標については、 1 事業が達成、2 事業が未達成となっている。</p> <p>実施事業については、目標値の 70%を超えている事業が 71.4%であ り、おおむね順調に進捗していると認識している。しかし、未達成が多 い分野においては、原因を把握し、目標達成に向け改善してまいりたい。</p>

日野会長	今の事務局の説明に関して、前半部分の教育に関する項目については、もう一度、西村委員からご質問・ご意見などをお願いしたい。
西村委員	まず、教育の ICT 化の推進について、KPI を小中学校各クラスの 1 週間での活用時間に変更いただき、分かりやすくなった。その中で、小学校の方は比較的活用できている一方、中学校の方は活用しきれていないようだが、どういう原因があるか。
事務局	タブレットについては、かなりの台数が小中学校に配備されるようになってきた。小学校ではテレビが黒板の上に設置されており、タブレットから直接テレビに向け通信ができ、活用しやすい。中学校では、大型テレビが数台しかなく、小学校に比べ活用が少ないという状況。
西村委員	ハード面でネックがあるということだが、活用の仕方についての検証を進めていただきたい。 2つ目に、英語教育の推進について、受検率や費用負担等、どういう形で実施しているのか。
事務局	市内の中学校 1 年生と 3 年生全員が受検している。これは市費負担。中学校 3 年生は 3 級レベルということで設定しており、1 年生は 5 級レベルで判断しているが、こちらも伸びてきている。これについては本市が小学校 1 年生から英語教育特例校の指定を受け、徐々に英語教育が進んできた結果と考える。
西村委員	色々な英語教育の取組みが数字として現れており心強い。また、受検するという経験を全員ができるのは良いことなので、引き続き進めていただきたい。
日野会長	タブレットを使ったらこんな良い事があるということ、もう少し明確に示せると良い。単に電子機器を使うというだけではあまり意味がない。双方向で使える仕組みがあると良いのではないかと。 もう 1 点、全国学力・学習状況調査の点数で大阪府の平均を超えるとあるが、目標の設定の仕方がこれでいいのか。高石の教育はこんな良い事があるというのが欲しい。たとえば、英語教育に秀でていることや、小学生が中等教育・高等教育を体験できることや、さらに高等教育が提携している海外に留学できること等があってもよい。

日野会長	他の分野に関しては、住宅に関する施策が多くある。本日、欠席の横山委員から、事務局の方で何か意見や質問など聞いているか。
事務局	横山委員からは、 『二・三世代同居近居、子育て世代、市内企業従業者への住宅支援について、もともと市内在住の者が新たに市内で住宅を購入した場合は転入ではないが、その数字は把握しているか?』とのご質問をいただいている。
事務局	ご指摘の住宅支援の申請者の内、市内からの申請者の数を把握しているかということだが、前住所地等の申請に必要な情報は個人情報の観点から把握していない。また年に1度、市内の課税対象者の方に郵送で制度の周知をさせていただいていることから、利用者数が増加し、定住人口につながっていると確信しているが、制度の対象が新築で国の減免制度が有効な期間の住宅に限ることや、対象であっても申請をしない方もいることから、市内外の申請者数の把握により流入人口の増減を分析するのは難しいと考えている。減免制度だけでなく、様々な施策の組み合わせにより効果が発揮されるものと考えているため、今後も引き続き制度の周知に努めてまいりたい。
古賀委員	「住みたくなる環境を整える」ということで言うと、学校教育がいかに進んでいるかということに多くの方が関心を持っているので、大阪府の平均点ということだけでなく、全国レベルを目指して、泉州でNO.1になってほしい。
日野会長	他に横山委員からのご意見・ご質問などはあるか。
事務局	横山委員からは、 『住宅関連の KPI については、平成 29 年度から KPI の上方修正を行ったものが多い中、昨年に続き全て目標達成をしており、制度の周知が十分にできているものとする。平成 31 年度の目標値をすでに達成している空き家バンク制度の利用促進、二・三世代同居近居支援、子育て世帯への住宅支援については、上方修正すべきでは。』とのご意見をいただいている。

日野会長	<p>基本目標4については、教育部門での数値に関しても着実な前進が見られるが、担当課では引き続き努力を続けていただき、その動向を見極めたいと思う。</p> <p>また住宅施策については、数値目標を上方修正したにもかかわらず、すべて目標値を上回っており、順調である。引き続き努力を続けていただきたい。というように評価したいが、いかがか。</p>
各委員	(異議なし)
日野会長	<p>全体としては、目標を達成しているものも多く、おおむね順調であるが、未達成のもの及び未実施の施策については、引き続き努力を続けていただきたいと、総括したいが、いかがか。</p>
各委員	(異議なし)
その他：地方創生推進交付金の交付を受けた事業について	
日野会長	<p>それでは最後に、地方創生推進交付金の交付を受けた施策について、基本目標2でも触れたが、「健幸のまちづくり事業から生まれた新規雇用者数」、「新規ヘルスケア商品・サービス創出数」、「協議会参加団体数」、「人材バンク登録者と企業のマッチング数」の4つのKPIについて評価が必要である。</p> <p>全体として、推進交付金に関するKPIについては、まだ事業開始から間もない中、すでに目標達成しているものもあり、おおむね順調であるが、未達成のものもあるため、今後も引き続き担当に努力していただきたいと総括したいが、いかがか。</p>
各委員	(異議なし)
事務局	<p>本日は、長時間にわたって審議をいただき、感謝申し上げます。</p> <p>いただいたご意見については、事務局にて取りまとめたい。日野会長と調整させていただき、委員の皆様へお示しさせていただきたい。</p>